

* 労働市場速報（平成27年4月分）について（解説メモ）

1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

- 有効求人数（季調値）は、98,529人で、前月比0.9%増となった。
- 有効求職者数（季調値）は、109,171人で、前月比0.3%減となった。
- この結果、有効求人倍率（季調値）は0.90倍となり、前月から0.01ポイントの上昇となった。

2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

- 新規求人数（季調値）は、35,091人で、前月比4.4%増となった。
- 新規求職者数（季調値）は、24,115人で、前月比0.2%増となった。
- この結果、新規求人倍率（季調値）は1.46倍となり、前月から0.06ポイントの上昇となった。
 - ・平成26年度の新規求人倍率は1.33倍（前年1.18倍）
 - ・平成26年度の有効求人倍率は0.86倍（前年0.72倍）
- 主要産業別新規求人数（原数値～前年同月比）は、建設業（2.9%減）、製造業（4.3%減）、運輸業・郵便業（14.6%減）、専門・技術サービス業（4.1%減）は減少した。他の産業は増加した。
全産業では前年同月比5.0%の増加であった【表4】。

3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

- パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者（前年同月比11.2%減）、無業者（同24.2%減）、在職者（同2.9%減）と共に減少した。

4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

- 雇用保険受給者の動向については、4月の受給者実人員は24,740人で、前年同月比9.0%減少した。

（雇用情勢の概況）

4月の有効求人倍率（季調値）は0.90倍で前月から0.01ポイント上昇した。求人・求職の動きは、新規求人数（原数値）は、前年同月比5.0%増加、新規求職者（原数値）については、同7.4%減少した。

県内の景気は、緩やかに回復している。雇用情勢については、一部に弱さが残るものの、持ち直しに向けた動きが広がっている。

■景気判断は日銀横浜支店（5月） ■雇用情勢判断は17ヶ月据え置き

今後も、雇用情勢について引き続き注視してまいりたい。